令和6年度 第2回郡上市図書館協議会議事録

期 日：令和7年3月21日（金）

会 場：白鳥ふれあい創造館 207号室

出席委員：溝口美咲氏、加藤清美氏、羽生敏江氏、谷口英弘氏、
福手均氏、武藤裕二氏

（欠席委員：日置暁氏）

事務局：和田隆男社会教育課長、河井康聖図書館長、
村上里絵主任

1. 開会

2. 図書館協議会委員長あいさつ

谷 口) 郡上市図書館は他市に比べて充実しているしている。蔵書も多く、子どももよく本を読んでいる。それぞれの立場で意見を出してほしい。

3. 議題

(1) 令和6年度郡上市図書館の活動報告について

河 井) 主な活動として、学校への協力でブックトークや移動図書など、学校との連携が取れた。また、全館でシステム変更のため臨時休館を行った。移動図書の日程を調整していただき、感謝申し上げます。ALT の協力を得てがいこくのことばできくおはなしかいの開催や、館内展示、移動図書などを行った。

7月に読書アンケートを実施した。家庭における子供の読書環境については、「子どもが本を読むことは大切だと思うか」に対し、園の保護者は99.8%と大切だと考えられていた。しかし、「家読（うちどく）」という言葉を知っている園の保護者は57.0%で、引き続き周知に努めていく。また、全国的に見ると年齢が上がるにつれ不読率が上がる傾向にあるが、「本を読むことが好きですか」に対し、昨年度より「はい」と答えた割合が増えていた。これは、学校、図書館の働きかけの成果と考えられる。

また、サービスの充実の点では、職員研修による技能の向上、レファレンス対応での他機関との連携、郷土資料の保存に力を入れた。来館する園が増え、利用者層の拡大となったが、未だにPC・スマートフォンからの資料検索や予約の周知が不十分と感じた。

(2) 令和7年度郡上市図書館の活動計画・当初予算について

河 井) 運営方針は来年度も引き続き生涯学習を支え暮らしに役立つ図書館づくりをめざす。また、第4次郡上市子ども読書活動推進計画により子どもの読書を大切に、利用者層の拡大に努めていく。

活動計画として、おとなの学校では関連書籍の館内展示を行いながら継続していく。また、中高生対象の「図書館サークル」を開始する。

令和7年度の変更点として、郡上ケーブルテレビでの番組「本とともにだち」が番組再編により終了、みなみ分室・めいほう分室・わら分室の開館時間の短縮、新聞、雑誌の購読数の減が上げられる。

(3) 「第4次郡上市子ども読書活動推進計画」について

河井) この度令和7年度から5年間を計画期間として「第4次郡上市子ども読書活動推進計画」を策定した。基本方針1～3は岐阜県の計画に基づき、具体的にまとめた。

(4) その他

福手) 新聞・雑誌の購読数が減少することについて。影響が大きいのではないか。

和田) 新聞は資料の保存を目的として、本館で責任をもって行う。財政状況から何を優先すべきか検討し、一般書や児童書を購入していくこととした。令和7年にいただいたご意見をもとに、令和8年度に向けあらためて検討していく。人口が減少していく中で、図書館の在り方を考え、協議していく。ご理解いただきたい。

福手) 分室の開館時間は短くなった理由は。

和田) 本館・分館が10時開館に対し、施設の開館時間に合わせて9時から開館していたところ、実情を鑑みて10時開館とした。

羽生) 学校でも、新聞は情報を得るために大事だと考えているが、購読できる学校と、できない学校がある。中学生には地元の記事が掲載された際に生徒への励みにもなる。

谷口) 子どもたちにとっても、取材を受けることがあり、図書室で活用し掲示するのは良い手だと思う。図書館でも新聞は大事だと思う。

羽生) 図書委員会は人気の委員会。図書室の掲示や企画に興味のある子どもも多く、楽しい場所として読書へつなげると良い。また、移動図書はたくさんの本と出会う機会として、大変ありがたい。

加藤) 家庭では、読書は大事だと感じているが親が読む時間がなく、子どもも家では読まないようだが、学校では朝読書や移動図書があり、本と親しむ時間を作ってくれていて助かっていると聞いた。

公民館行事の際に読み聞かせボランティアとして活動したが、普段図書館に来ない子がおはなしを聞きに来てくれた。本に親しむには、きっかけが大事だと感じた。

溝口) 郡上高校では、3年生が受験勉強に利用し、進路や面接、小論文の本がよく出た。また、学校にない難しい本は市図書館からお借りでき、助かった。受験勉強での利用や漫画を読みに来ていた子が、小説を読むようになったり、家で新聞を取ってなくても総合学習で利用したりと、図書館がいろいろなメディアがあると知る入り口にもなっている。

武藤) 白鳥中学校の図書室は、本を読む子だけでなく、集まって勉強をしたり、かるたが

できるスペースがあったりと、楽しんで利用している姿を見る。多様な活動ができる場所として図書室を使ってもらいたい。

溝 口) 図書館サークルはどういったことを行うか？

河 井) 中高生が集まって、YA コーナーをどうしたら良いかを参加者で話していきたい。今後、分館でも行えたらと考えている。

和 田) 中学生は、社会教育課として総合文化教室の一環として活動してもらいたい。文化面でも中学生の居場所となればと考える。

4. 社会教育課長あいさつ

和 田) 子どもたちには読書を通して様々な体験をしてもらい、なぜ読書が必要なのかを伝えていきたい。来年度もよろしくお願ひ申し上げる。

5. 閉 会